



平成30年12月7日

各位

株式会社フィスコ
代表取締役社長 狩野 仁志
(JASDAQ・コード3807)
問い合わせ先：
取締役管理本部長 松崎 祐之
電話番号 03(6757)8570

当社及び当社連結子会社における特別損失の計上、
当社の通期業績予想及び配当予想の修正
並びに当社連結子会社の通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社の連結子会社である株式会社ネクスグループが、平成30年11月期において特別損失（減損損失）を計上する見込みとなり、平成30年11月期（平成29年12月1日～平成30年11月30日）の業績予想を修正いたしましたので、添付のとおりお知らせいたします。

これに伴い、当社では平成30年12月期連結財務諸表において約1,031百万円を特別損失として計上する見込みとなりましたので、併せてお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、当社においても、平成30年8月14日に公表いたしました平成30年12月期通期（平成30年1月1日～平成30年12月31日）の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1)平成30年12月期通期業績予想の数値の修正（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	12,358	50	△666	△328	円 銭 △8.62
今回修正予想 (B)	11,614	△494	△2,078	△2,357	△61.62
増減額 (B-A)	△743	△544	△1,411	△2,029	
増減率 (%)	△6.0	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成29年12月期)	14,620	7	△59	636	16.73

(2)修正の理由

売上高については、売り上げ目標の未達成などにより、当社、連結子会社である株式会社フィスコ I R 及び株式会社ネクスグループにおいて予想より売上が 383 百万円下回る見込みであること、また、連結子会社であり投融資業を事業目的とする株式会社ヴァルカン・クリプト・カレンシー・フィナンシャル・プロダクツにおいて仮想通貨の市場価格が下落傾向にあることや仮想通貨交換所間の仮想通貨の差額が減少しているためトレーディングやアービトラージなどの運用額を圧縮させたことなどから、仮想通貨の運用益が予想を 340 百万円下回る見込みとなり、売上高は平成 30 年 8 月 14 日時点の予想より減少しました。

これらの売上の減少に伴い、営業利益も 544 百万円減少しております。

経常利益につきましては、持分法投資損失 932 百万円を計上する見込みであることから平成 30 年 8 月 14 日時点の予想より減少しました。持分法投資損失計上の要因は、持分法適用関連会社である株式会社フィスコ仮想通貨取引所（以下、「FCCE」といいます。）において、「Zaif」事業の譲受にあたりハッキング対応費用として利用者の補償のために仮想通貨（ビットコイン 2,723.4 枚、ビットコインキャッシュ 40,360 枚）を事前に準備し保持しておりましたが※、事業譲渡の効力発生日である平成 30 年 11 月 22 日において、これらの仮想通貨の市場価格の下落に伴い補填に使用した仮想通貨について、取得価格と事業譲渡の効力発生日の時価との差額を実現損失として計上する事となりました。

一方で、のれんは、「Zaif」事業での引き継ぐ資産と譲渡代金の差額が主因で発生します。事業譲渡の効力発生日である平成 30 年 11 月 22 日における仮想通貨の市場価格が下落したことに伴い、FCCE が譲り受ける預り仮想通貨（債務）は事業譲渡の効力発生日の時価で測定される事から、結果として、のれんの金額も当初の見込みよりも減少しております。

そのため、来期以降ののれん償却額が当初の見込みよりも減少する事となります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、既述の通り特別損失 1,031 百万円を計上することとなりましたので、平成 30 年 8 月 14 日時点の予想より減少しました。

※平成 30 年 10 月 10 日付「持分法適用関連会社における事業の譲受けに関するお知らせ」をご参照ください。

2. 配当予想の修正について

(1)配当予想修正の内容

	年間配当金（円）		
	第 2 四半期末	期末	合計
前回予想 (平成 30 年 2 月 14 日発表)	—	—	—
今回修正予想		0.00	0.00
当期実績	0.00		
前期実績 (平成 29 年 12 月期)	0.00	3.00	3.00

(2)修正の理由

当社は、グループシナジーを追求することにより経営効率化を図るとともに成長戦略の推進により収益力の向上を実現して、安定的な配当を継続したいと考えております。

しかしながら、今期については、成長分野への投資等に充当することを優先し、より高い成長実現のため、これまで「未定」としておりました当期の期末配当予想を「無配」に修正させていただきます。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお、株主優待につきましては従来同様(自社サービス無料クーポン)とし、また、加えて仮想通貨フィスコトークン配布の検討を予定しています。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上

各 位

会 社 名 株式会社ネクスグループ
 代 表 者 名 代表取締役社長 秋山 司
 (JASDAQ・コード6634)
 問 合 せ 先
 役 職 ・ 氏 名 代表取締役副社長 石原 直樹
 電 話 03-5766-9870

特別損失(減損損失)の計上及び通期業績予想修正に関するお知らせ

特別損失の計上および平成 30 年 1 月 19 日の決算発表時に公表しました平成 30 年 11 月期の業績予想の修正に関しまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社は平成 30 年 12 月 7 日開催の取締役会において、当社連結子会社であった株式会社バーサタイル（平成 30 年 11 月 30 日解散）が株式会社ネクスプレミアムグループおよび株式会社ネクスファームホールディングスを新設分割したことに際して、株式会社バーサタイルの事業であった「CoSTUME NATIONAL」のトレードマーク（商標権）891 百万円を減損、及び株式会社バーサタイルの子会社であった株式会社ファセッタズムののれん 140 百万円を減損処理することを決議いたしました。

なお、平成 30 年 11 月 22 日公表の「子会社の異動、連結子会社の解散（特別清算）、債権の取立不能のそれぞれおよび特別損失の発生に関するお知らせ」で開示をいたしました株式会社バーサタイルの当社に対する債務の処理方法については精査中ではありますが、連結決算に与える影響は軽微と考えております。

2. 当期の連結業績予想数値の修正（平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 11 月 30 日）

（単位：百万円未満切り捨て）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株 当 たり 連結当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 11,398	百万円 743	百万円 698	百万円 563	円 銭 37.84
今回修正予想（B）	11,170	651	257	△107	△0.01
増 減 額（B－A）	△227	△91	△441	△670	
増 減 率（％）	△2.0	△12.4	△63.2	—	
（ご参考）前期連結実績 （平成 29 年 11 月期）	12,198	△914	△940	902	60.68

3. 修正の理由

売上面につきましては、当社連結子会社のイー・旅ネット・ドット・コム株式会社の売上が予定を下回ったため、減少しました。

損益面につきましては、営業利益において、通期として当社連結子会社の株式会社チチカカの販管費の増加が見られ、第4四半期においては、株式会社チチカカの前原価率が上昇したことにより、減少いたしました。経常利益においては、株式会社チチカカが仮想通貨運用損 393 百万円（※1）を計上いたしました。昨今は下落局面が目立つ仮想通貨市場ですが、仮想通貨価格が大きく下落した際は、リスクコントロールの一環として適宜損切りを行っており、資金効率を常に意識したトレーディングを展開しております。結果として仮想通貨事業としては今期一定程度の利益をあげておりますが、株式会社チチカカにおいて仮想通貨に対する投資を主たる事業としていなかったため、営業外費用として計上しております。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、当社保有株式を譲渡により特別利益 651 百万円を計上いたしました（※2）、「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり「CoSTUME NATIONAL」のトレードマーク（商標権）891 百万円を減損いたしました。「CoSTUME NATIONAL」に関しましては、現状の実績を鑑み、事業計画をより保守的に見直した結果です。今後は全世界に向けたライセンス事業の開始、拡大のため、当事業とシナジーのある業務提携先を検討し、早急な売上の拡大に努めてまいります。

同じく「1. 特別損失の計上について」に記載のとおり、株式会社ファセッタズムののれん 140 百万円の減損処理については、売上が上昇してきたものの、当初想定していた事業計画を下回ったため、より保守的に見直しをした結果であります。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

※1…「連結決算における営業外収益及び営業外費用ならびに個別決算における特別損失の計上に関するお知らせ」（平成 30 年 4 月 13 日公表）

※2…「当社保有株式の譲渡による特別利益計上に関するお知らせ」（平成 30 年 3 月 27 日、平成 30 年 6 月 1 日公表）

「株式会社カイカの株式売却と当該売却に伴う持分法適用関連会社の異動に関するお知らせ」（平成 30 年 10 月 19 日公表）

以 上